

## 「出題の意図」

選抜区分	2020（令和2）年度（選抜区分：推薦選抜） 国際環境工学部 建築デザイン学科（科目名：総合問題・面接）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>【総合問題】</p> <p>第1問（数学） ＜出題の意図・ねらい＞ 高校数学の学習事項を全般的に確認する基礎的な問題を出題した。</p> <p>問1 最大公約数・最小公倍数に関する基礎的な知識を確認する問題とした。</p> <p>問2 確率に関する基本的な知識を確認する問題とした。</p> <p>問3 循環小数について基本的な知識を確認する問題とした。</p> <p>問4 整数に関する基本的な知識を確認する問題とした。</p> <p>問5 三角関数に関する基本的な知識を確認する問題とした。</p> <p>＜答案の特徴と傾向＞ 全体的に正答率が低く、全問正解者は一部であった。</p> <p>第2問（物理） 物理について、出題の意図は公表しておりません。</p> <p>第3問（造形）</p> <p>問1 建築のデザインを行う上で基礎的な素養として必要な立体的な空間の認識力・想像力、三次元的な表現力、スケッチによる描写力等の総合的な造形力をみる。</p> <p>問2 与えられた質問に対して的確に題意を捉え、自らの見解を述べているかを問うものである。特に、想像力、発想力、論理的思考力、文章表現力をみることを狙いとする。</p>

<答案の特徴と傾向>

オランダの海辺の建物という条件のもと、写真の建物がどのような全体像であるかを想像させ、立体的な描写を課すことによって、立体的な空間の認識力、想像力、スケッチ力等の能力を見た。別の角度から見たスケッチを課題とすることで、写真からだけでは伺い知ることのできない全体像の描写に期待した。題意を捉え切れていない受験生が多く、元の建物からかけ離れた描写を行っている案も多かった。

**【面接】**

<面接内容>

9分程度の個別面接・口頭試問を行った。

- ・志望動機、高校生活の充実度や実績
- ・本学科の教育目的・内容・特色の理解度
- ・競技場の設計を行う際、競技者を優先すべきか観客を優先すべきかとそれに関する自身の意見
- ・超高層集合住宅の何階に住みたいと思うかとそれに関する自身の意見
- ・将来の夢とそれを実現するために行っている努力
- ・本人の長所に関する質問をし、回答を求めた。

<受験生の特徴と傾向>

- ・例年同様に、事前に用意していたと推察される、志望動機や本学科の教育目的など質問に対しては、ある程度の受験生が自身の言葉で回答しており、丸暗記した内容を必死で言葉にしようとする受験生との差異が見受けられた。
- ・競技場の設計で競技者と観客のいずれを優先すべきか、超高層集合住宅の何階に住みたいと思うかについて問うた際には、自分の回答を裏付ける理由について、建築の役割や機能、長所・短所などを理解し、理論的に自分の考えを述べている受験生が多かった。